

氏 名	石 川 康 二 いし かわ こう じ
学 位 の 種 類	農 学 博 士
学 位 記 番 号	論 農 博 第 362 号
学位授与の日付	昭 和 47 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 題 目	ミカンの市場価格に関する流通経済的研究

(主 査)
論文調査委員 教授 上村 恵一 教授 神崎 博愛 教授 菊地 泰次

論 文 内 容 の 要 旨

これまで、ミカン（以下温州ミカンをさす）の市場価格に関する研究は、年次別、市場別、時期別、規格別の比較分析が主流であった。著者は、ミカンの市場価格を、それに影響をあたえると見られる諸要因と関連させて分析することにより、価格分析にいくつかの新しい知見を加えた。

ミカンは、品種系統による異質性が少なく、比較的等質的な商品とみられる。したがって、市場における買い手は、等級、階級といった規格は別として、銘柄（産地、組合）を重要な選択指標とするもので、産地間の価格差は大きい。指標としての銘柄は、たんに、数量面、品質面の差を反映するだけではなく、それらの安定性をも意味している。そこで、ミカンの市場価格は、市場の需給関係はもちろん、数量面では、市場占有率、品質面では、外観的ならびに内容的品質要素によって強く影響される。この点から著者は、「需給構造」「市場占有率」「品質要素」と市場価格との関連性を追求している。

市場価格と需給構造の分析では、ミカンの市場価格の動向を、市場人口1人当り入荷量と実質卸売価格との関係、つまり、市場段階の需要曲線の動向として把握した。これにより、ミカンの市場価格の年次変動を、より明確に説明することに成功した。

ついで、市場価格が、産地の市場占有率のみならず、時期別出荷比率に強く影響されるものであり、ある時期に市場価格の高い産地は、その時期の市場占有率が高いのみならず、時期別出荷比率の高いことを実証的に明らかにしている。このことは、産地の出荷計画にとって、重要な示唆をあたえるものである。

最近、ミカンの品質向上の要請が高まっているが、ミカンの品質は大きく外観的品質と内容的品質とに分けることができる。内容的品質は、可測性を持った糖度、酸度、甘味比が重要であるが、これら内容的品質要素と市場価格との関係は、これまで十分明らかにされていない。著者は市場の資料より、この点を分析し、日別の糖度、酸度、甘味比と市場価格との相関は強いが、一定期間におけるそれらの平均レベルと市場価格との間には強い相関があり、とくに、甘味比と市場価格との間には、年度に拘らず、強い相関が見られることを明らかにしている。

最後に、産地間の品質格差が縮小するならば、時期ごとの市場占有率と市場価格との関係は一属強まり、時期別の価格差が縮小し平準化するならば、産地ごとの市場占有率と市場価格との関係は張まり、早期または越年出荷の産地の有利性は低下することを指摘している。また、階級間価格差が、全般に縮小する中で、銘柄産地の大玉の価格低下、一般産地の小玉の価格低下が起るであろうことを予測している。

論文審査の結果の要旨

ミカン（以下温州ミカンをさす）の市場価格について、これまで年次別、市場別、時期別、規格別の比較分析は多く見られるが、市場価格の形成に影響をおよぼす諸要因を関連させて分析したものは、きわめて少ない。著者は、ミカンの価格形成に影響をおよぼすおもな要因をとりあげ、それら要因と市場価格との関連について実証的に分析し、ミカンの価格分析に、いくつかの新しい知見を加えた。

ミカンは、銘柄（産地、組合）が重要な選択指標となることから、産地間の価格差が大きくなり、銘柄が、品質の優秀性のみでなく、供給量の安定性をも意味していることを明らかにした。さらに、ミカンの市場価格が、その「需給構造」「市場占有率」「品質要素」によって、強く影響をうけることに着目して、それら要因と市場価格との関連性を追求している。

まず、需給構造では、市場人口1人当たり入荷量と実質卸売価格との関係を分析することにより、市場価格の年次変動を明確に説明している。

ついで、市場価格が、市場占有率のみならず、時期別出荷比率と深い関係を持ち、市場価格の高い産地が、市場占有率ならびに時期別出荷比率の高いことを明らかにして産地出荷計画に重要な示唆をあたえている。

また、品質要素、とくに可測性をもった糖度、酸度、甘味比を市場価格と関連づけて分析し、一定期間の内容的品質要素の平均レベルと市場価格、とくに甘味比と市場価格との間に、強い関係のあることを明らかにしている。

さらに、産地別の価格低下傾向についても、いくつかの動向を予測して、産地販売政策に重要な示唆をあたえている。

このように、本研究は、ミカンにおける価格形成の過程を明らかにして重要な新知見を加えたものであり、農林経済学ならびに果樹生産の実際に貢献するところが大きい。

よって、本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。